

横川っ子だより



コロナ禍の本当の恐怖

今、第2波とも言える新型コロナウイルス感染症が全国的に拡大しています。十分、感染防止に努めていても、「いつ、どこで、どうやって」うつったのかわからない、いわゆる市中感染が広がっています。

感染した場合、発熱など風邪の症状に加え、味覚や嗅覚に異常を感じるそうですが、コロナ禍の本当の恐怖は、差別や偏見を生むことにあると思います。ひとたび、学校や地域で感染者の情報が入ったとき、だれしも「自分は大丈夫だろうか」「感染していないだろうか」と不安な気持ちになります。その不安感が、人のせいにしてたり、人を批判したり、また事実ではないことを口にしたたりするなど、かたよった特別な感情を抱いてしまうことがあります。まさに、コロナ禍の本当の恐怖は、ここにあります。

今や、だれが感染してもおかしくはない状況の中で、私たちは、コロナ禍を冷静に判断して相手を思いやったり、これまで以上に感染防止に努めたりすることが大切だと思えます。学校では、3密を避けた教育活動や下校後の消毒作業などをして参りましたが、これからも「手洗い、マスク、ソーシャルディスタンス」など、個々の感染防止対策にも努めて参ります。

以下の状況になりましたら、必ず、学校へお知らせください。保健所の指導のもと、半田市教育委員会と連携し、誠意をもって対応して参ります。

○児童に感染が判明した場合

○児童が濃厚接触者と判断された場合

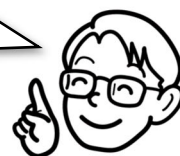
○児童がPCR検査を受けた（受ける予定がある）場合

○同居の家族が感染した場合、又は濃厚接触者と判断された場合

「鬼滅の刃」流 強い自分の作り方

空前のブームとなった「鬼滅の刃」は、なぜ、社会現象を巻き起こしたのでしょうか。「努力・友情・勝利」が描かれていることはもちろん、キャラクターの言動が、自らの生き方のモデルになっているような気がします。

- あきらめない心
- 素直さ
- 自信
- 仲間を信じる心
- やさしさ
- 使命感
- 正直さ
- 自分で考える力



たんきゅうしん
探究心をもって

校庭では蝉の大合唱が、本格的な夏の到来を告げています。
本来ならば、7月20日に終業式を迎え、スポーツの祭典「東京オリンピック」が盛大に開催されたはずでしたが、今年度は、コロナ禍により、終業式は8月7日となりました。子どもたちが楽しみにしている夏休みも短縮となり、2学期は8月21日から始まります。

今、コロナ禍をはじめ、激甚災害も至る所で起こり、世の中では、いつ何が起こるかわからないという心配が広がっています。いわゆる、「先行き不透明」です。
学校教育では、今、自ら問題を見つけ、無からの努力や工夫、試行錯誤しながら問題を解決していく力を育てています。先行き不透明ではなく、将来の見通しをもって、「今、何をしなければならぬかを考え、判断し、行動に移していくこと」が、これから大切になると考えています。

コロナ禍で、心が沈んでいる中、愛知県瀬戸市出身の高校生棋士 藤井聡太 さんが、将棋のタイトルがかかった勝負で、見事勝利し、最年少タイトルを30年ぶりに更新しました。将棋界では、藤井時代の到来と言われますが、藤井さんの強さはどこにあるのでしょうか。

藤井さんは、小学1年生のころ、「羽生名人を超えたい！」という夢を抱いていました。そして、将棋を指すとき、盤上で何が正解かを見つけことに集中しているそうです。たいていは、タイトルがかかった勝負において、周りからの期待する声や最年少記録がかかったプレッシャーから、心が乱され、自分の将棋に集中できなくなってしまうところですが、藤井さんは、常に一手一手、最善を追求しているそうです。



タイトルをとった藤井さんは、さらにこう述べています。
「将棋は難しいし、まだまだ課題が多いので、これからも探究心をもってがんばりたい」と、今後の抱負を語っていました。ここに、藤井さんの強さがあると思いました。

「探究」とは、物事の本質を探ってみきわめようとすることです。子どもの七夕の願いに、「世の中から、コロナウイルスがなくなりますように！」と短冊に書かれていました。
きっと、その子は、「コロナウイルスをなくすためには、どうすればよいか」を探究していると思います。この探究心こそ、想定外のことが起きても、乗り越えていける力になるとおもいました。